

公表:令和6年1月15日 事業所名 一般社団法人Natural こども発達支援所はる(児童発達支援事業所職員向け) 回収率 100 %

チェック項目		はい	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	63%	38%	・利用人数が多い日は、子ども2人一組にして支援室を確保している。 ・運動スペースの確保が難しい ・利用人数に対して狭く感じるが、部屋を分けて活動する等の工夫をしている。 ・大勢ホールに集まらないように和室やパーテーションに分かれて小集団でSST	・利用児数に応じて、支援方法や支援場所を調整して行う。 ・利用児を可能な範囲で分散する。
	② 職員の配置数は適切である。	83%	17%	・訪問や職員の休みがあると人手不足の時もあります。 ・利用人数に応じて、職員の配置をしている。 ・個別支援を支援者1人で2人~3人	・職員のお休みが重ならないように調整を行う。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%	・別館奥の洗面所のドアをはずしました。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	88%	13%	・日頃より衛生管理を徹底し、清潔で心地良い環境を作るようにしている	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	88%	13%	・支援者が揃う時間はごく限られているため、特に振り返りができていない ・送迎後に簡単に振り返りができる日もあるが、十分な把握ではない。	・利用児が多く、担当制を作り、担当児については把握できる。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・保護者の意見を大切にし、改善する内容に関しては、職員会議で検討している。	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	96%	4%		・外部評価は今後検討したい。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	100%	0%	・研修のテーマの提案は個人が特定されないようにするとより提案しやすくなると思います ・年に数回の職員研修を行なっている。	
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	96%	4%		
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	96%	4%		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	96%	4%		
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	88%	13%	・もっとチームで話し合う時間があればよいと思います ・チームで行う時もあるがその場にいる2、3人で決めることもある	・時間が確保できるように検討します。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・常に職員間で情報共有し、話し合っている。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	・もう少し時間がほしいです ・役割分担はしているが、内容までは十分ではない ・役割分担はしている。個別支援の内容は相談があれば話をする	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	71%	29%	・可能な限りはしているつもりだが、チームでは難しく携わる数人で話し合いは行うようにはしている ・もう少し時間がほしいです ・必ずではない ・できている時とできていない時がある。 ・別館全体では中々時間がとれないが小グループでの振り返りはしている	・時間が確保できるように検討します。 ・長期休み期間など、話し合いより児の見守りが優先される時もある。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	96%	4%	・昼休憩にカルテを書いている人が殆どないように思います	
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	88%	13%	・児童発達は発達の著しい時期であり、なるべくセルフではなく定期的なモニタリングが必要になる。セルフだと必要な時とは言え、タイミングが難しい。	・地域的に、相談のモニタリングと事業所のモニタリングが混同しているため、理解を改める。	
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	96%	4%		
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	92%	8%		
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	96%	4%	・該当児なし	・教育・保育現場に必要なに応じて連携して行きます。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	88%	13%	・該当児なし	・医療機関と連携しております。
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	96%	4%		
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	96%	4%	・教育委員会への情報提供等行っている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%	29%	・地域的に専門機関が無く、発達外来とは連携している。	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	75%	25%	・行っていない	・90%以上が並行通園
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	83%	17%	・自らは参加はしていないが、管理者が参加している。	・会議で報告している。
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	96%	4%	・毎年、村上市主催のペアトレと今年は、法人でも行った。	
保護者への説明責任等	㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	96%	4%		
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	96%	4%	・今より、積極的に保護者の悩みに対して相談に応じたい。（今、応じていないわけではないが）	
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	88%	13%	・親の会など、親同士が情報共有する場を開催しました。増やせると良い。	
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	㊲ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	㊳ 個人情報取扱いに十分注意している	92%	8%		
	㊴ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	㊵ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	83%	17%	・はるまつりでは地域への呼びかけがあってもよかった ・わかりません ・今年度ははるまつりの開催を行なった。 ・はる祭りにはご近所をお誘いしたのでしょうか	・感染症のとの兼ね合いで、「はる祭り」は3年ぶりで開催した。今後、地域へ働きかけたい。
	非常時等の対応	㊶ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	
㊷ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		96%	4%		
㊸ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		96%	4%	・予防注射までは把握できていません ・アレルギーのあるお子様に関しては、カルテの表紙に記載し、全職員が把握できるようにしている。 ・医師ではなく保護者から	
㊹ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		96%	4%		
㊺ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		100%	0%		
㊻ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		100%	0%	・職員研修にて虐待防止の研修を行なっている。	
㊼ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		96%	4%		